

【万葉仮名】

宇利波米婆 胡藤母意母保由 久利波米婆麻
 斯提斯農波由 伊豆久欲利 枳多利斯物能曾
 麻奈迦比爾 母等奈可利提 夜周伊斯奈佐
 農

うりはめば こどもおもほゆ くりはめば
 ましてしぬはゆ いづくより きたりしもの
 ぞ まなかひに もとなかかりて やすいし
 なさぬ

【現代語訳】瓜を食べれば子どもを思い出す。栗を食べれば子どもがいとおいしい。子どもはどこからやってきたのだろう。子どものことが目の前に浮かんで、なかなか寝付けないなあ

この歌は、山上憶良(やまのうえおくら)の代表的な長歌です。

山上憶良(やまのうえのおくら)は斉明天皇6年(660)生まれと言われています。天平5年(733)に書いたとされる第五巻に載っている「沈痾自哀(ちんあじあい)の文」の中に、「この時に年は七十

有四にして」というところから逆算したもので推定です。万葉集には、憶良四十を過ぎてからの歌が載っています。この歌は、子どものことを想った歌が特徴で、病氣や貧乏など、人生の苦しい面や、その時代の問題をも扱っているのが特色になっています。

この歌からは子供好きな憶良の子供を思う気持ち切々と伝わってきます。

ポイントはこの「り」。うりとくりです。万葉の昔からこのうりとくりは食されていて子供の好物であったのでしょうか。

しかし、この瓜とは何でしょう。「モロキユ」にするあのキユリでしょうか。

キユリは胡瓜と書き、原産地はヒマラヤ南麓らしく、シルクロードを経て中国から日本に伝来しました。平安時代のはじめにはもう京野菜として栽培が始まっていたそうです。胡とは中国より西の国。これを西域といいます。そこから来たことを意味します。

瓜とは瓜科の総称といえます。西瓜も瓜の仲間。原産地はアフリカ、シルクロードを経て日本に伝わったと言われています。ウリもクリも子供の好物だったのでしょうか。そう考えるとウリは真桑ウリです。江戸時代の百科事典「和漢三才図会」によれば、ウリの中で最も甘いのが真桑瓜といえます。メロンに似たこの瓜は、大事な甘味だったのでしょうか。

ウリ、クリと「リ」の対も見事です。